

消えた淵

★滋賀県 湖西 安曇川上流
☆葛川 坂下周辺

6月に入ってもう直ぐ梅雨を迎える土曜の昼下がり、安曇川の坂下の上手にある小さな淵の前で力り力りしながら只近いアマゴに躍りになっていた。

ゴルドワイヤーでボディを巻いたミッジピューパを流すと流れの中で反転する姿が見え、ロッドを立てると漸く乗った。

「よっしゃあゝゝゝ」と気分が高揚するや否やゝゝゝテンションが吹っ切れて軽くなった。

ゝゝゝ口切れゝゝ

「畜生ゝゝゝ。次回は絶対仕留めてやる。」

翌週大雨が降り梅雨に突入し、湖西に大雨が降った。止む無く翌々週、待ちわびた様に勇んで出かけた。

坂下の丸山商店前で車を止めゝゝゝ

「毎度おゝゝ遊魚券下さい。」

「へえゝゝようおゝゝしやすゝゝ日券どすか？」

「エエゝゝ先週ゝゝついで雨やったんとちやいますの？よう降りました？」

「降ったなんてもんやあらしまへんえゝゝりやもおゝ前の川が溢れるか思いましたえゝゝ」
「ぞない言つたら、ちよっと砂で埋まった様な

気がするなゝゝゝ」

「そうどすゝゝ大きな岩も転がって来よりましてやゝゝそおら大きな音たててゝゝこゝんとこゝ大雨降つたら、怖くてどんなりしまへんゝゝ」
「そおゝでつかゝゝ通りで川原が殺伐とした感じやなゝゝ思てましてんゝゝ」

「あそやゝゝこれ(クールミントガム)ひとつもおゝときますわゝゝ」

「へえゝおおきにゝゝ」

「ほな、行きますつゝゝゝどつもおおきにゝゝ」

「おおきにありがとさんどす。また宜しゅうお願い致します。」

ゝゝと婆様は店先まで見送ってくれた。

安曇川で魚券を買うのはいつもこゝと決めていた。父方の祖母が京都出身で京都弁を流暢に扱う婆ちゃん、もうとづくに亡くなってしまったが、こゝの婆様は私の祖母を彷彿とさせる言葉遣いで、そのあたりもおお気に入りのひとつになっていた。特に「また宜しゅうおたの申します。」とか「また宜しゅうお願い致します。」と店を出て見送ってくれるところも気に入っていた。これを聞ければ安曇川も健在ゝゝなど何の因果もないのに勝手に思い込んでいた。

さてゝゝあいつを仕留めなければならぬ。

夕方に勝負を掛ける前に下見のつもりでワクワクしながら川に降りた途端、余りの変わり様

に唾然とした。

先々週に腰掛けてティペットを結んだ岩がない。

嫌な予感がして、ロッドも継がずに川原を上がるゝゝ大丈夫かな？と覗き込んだ場所にはゝゝ目を疑う様な砂底のチャラ瀬が横たわっていた。

瀬が横たわるなんて表現はおかしいゝゝしかし、先々週まではこゝは淵だった。

どう見ても、上流から横暴極まりないチャラ瀬がやってきて、「どかんかい」と小淵を押し退けて凶々しく横たわったとしか思えない。腹立たしさと大きな脱力感が襲った。

(あいつは何処に行つてもたんや？誰かに釣られたんか？それとも流されてしもたんか？この凶々しいチャラ瀬の下に埋まつてもたんとかやうか？)

ハッとして我に返り、冷静になって周囲を見渡すと、とても溪流釣りと言う雰囲気ではなかった。

(川つてゝゝ一瞬でこゝまで変わるんやゝゝ) この日は何処で何をやっても釣れる気がしなかった。

回過ぎにまたまた丸山商店に立ち寄りゝゝジューズを買う。

「あきまへんなゝゝゝゝ何処も彼処も埋まつてもうてゝゝ」

「どうですかあゝ・・お気の毒に・・」

「何処がエエやろ・・貫井まで下がったらどうな
いやろ?」

「それどこですえ?木戸口より下手はよう知ら
しまへん・・こおつと・・溪はどこないえ?」

「昔火谷?」

「いや・・その下手の谷ですえ・・ヘク谷言
いましてな・・ようこられるお客さんが時々
入るようなこと言うてはりますえ・・」

「ヘク谷?」

「釣りせえしまへんで、これ以上はわからし
まへん・・ほんま、お気の毒になあゝ」

・・その日は結局何処も彼処もダメだった。

ヘク谷はその日には行かなかったが、後々思
い起しては釣り上がる安曇川のボウズ回避の
谷となっている。

■安曇川上流・坂下周辺の二案内

安曇川（葛川）本流筋で釣りをする上限は坂
下と決めている。木戸口から釣りあがるか?坂
下から釣り下がるか?が悩むところでもあるが、
結果的には本流は隔適放流の巨大放流釣り場と
考えるのがよく、放流し易い場所に魚が溜まり、
そのあたりを頭に入れておかないと足で釣果を
稼ぐなどは徒労に終わることが多い。

上手く放流直後に入れば流芯で定位置する大物
を目にする事もある（釣れるとは限らない）。

溪に入るなら、足尾（昔火）谷は何時言っ
てもトチビアマゴの猛烈アタックに5匹が一匹混
じる程度と言う経験しかなくイワナが出てもお
かしくなさそうだが、入溪者が多いのか、入り
口付近はパツとしない。漁協の方に聞けば丸太
橋まで歩けとのこと・・



その点、ヘク谷はサイズさえ高望みしなけれ
ば結構な確率でイワナを手にする事が出来る。

水量に恵まれば本流とは比較にならない美形
のアマゴも上がる。但し、先行者が居ればアウ
ト・・よく確かめてから入る事が必要、本流と
の合流点は枝が張り出す小谷とても竿を出す
気にはなれないが、溪の上流を見上げて右手の
杉木立を暫く歩けば谷が開けて竿が出せる。薄
暗く夏日の避暑にはもってこいだが、ポー&ア
ローキャストも辞さない覚悟がないとイワナを
手にする事は出来ない。ロッドは長くても7フ
ット半以下でないといライラする。しかし、
このボウズ回避の谷とそこを教えてくれた丸山
の婆さんがいなければ・・単に近いと言うだけ
でこの安曇川には想いが湧かなかったかもしれ
ない。

しかし、二年ぶりに行くと、この丸山商店が
完全に廃業されていた。ちょっと残念だが致し
方ない。

これまでお世話になりました。

くれぐれもお体に自愛下さり、お元気で過ご
してください。

2006年 8月